

日本語カリキュラム

第 6 - 12 学年

2016 年 6 月 5 日提出

1. 背景

東京横浜独逸学園の第 2 外国語としての日本語科目は、バイリンガル生徒（独日国際家族の子弟など）を対象にしている。履修できるのは、日本語を自然な状況、すなわち家庭や日本という生活環境において母語として習得している生徒である。そのため、本校の主要な学校言語であるドイツ語と並行して、第 2 の母語ないし継承語としての日本語の力を伸ばすということは、彼らの思考・判断・行動力の発達に寄与するものである。

バイリンガルについての学術的・実践的な知見によれば、本校のバイリンガル生徒の日本語の力は次の点を区別して捉える必要がある：

- ・ 授業での学習活動に取り組む際に必要な思考力は、特にドイツ語を介して行われる他教科により、学年相当に発達している。
- ・ 狭義の日本語力、すなわち語彙、文法能力などはモノリンガル生徒（例えば、日本の学校に在籍する生徒の日本語力）より、やや遅いペースで、発達する。
- ・ 日本語で聞く力、特に日常的なコミュニケーション状況に必要な聞く力は最も発達しているが、他方で学習言語としての日本語力は意識的な学習状況において初めて習得が可能になる。

以上のことから、本校の生徒の日本語の力は母語話者の力の特徴と外国語としての力の特徴の両方に特徴づけられ、おそらく両者の間に位置づくものと考えられる。しかしこうした第2の母語ないし継承語としての日本語力が、授業における学習支援を最大限に与えた場合、どこまで伸びうるのかはまだ明らかになっていない。これは今後、本カリキュラムの実施により検証され、明確化される必要がある。

2. 教育目標と特色

本カリキュラムの教育目標と特色は次のようにまとめられる：

- 1) 最終的な目標は、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のC1（場合によってC2）レベルとする。
- 2) 日本の文部科学省検定教科書を以下の理由から使用する：
 - 教科書は、日本語を自然な状況で母語話者として習得している生徒を対象に作成されている。
 - 日本の学習指導要領が目指す能力は、ドイツ（ないしチューリンゲン州）の、外国語およびドイツ語の学習指導要領と基本的に一致している。
 - 本校の生徒の日本語力の発達レベルに合うよう、日本の教科書を2学年程度下げて使用する（漢字レベルも含む）。
- 3) ドイツと日本の学習指導要領のいくつかの違いにかかわる次の点については、ドイツ（ないしチューリンゲン州）の学習指導要領に合わせている：
 - 論述や口頭発表の形式のアビトゥア試験で求められる力を目標に、受容（聞く、読む）よりは産出（話す、書く）の能力により重点が置かれ、問題解決型の分析能力を育成する。そのため、テキストの分析と解釈、論理的な議論と弁証法型論証などが各学年の方法的な能力として目指される。
 - 語彙、文法、言語の比較などの言語事項の知識は、産出活動（特に「書くこと」）とも関連づけて指導される。特にバイリンガル生徒は、学習言語を意識的に習得する必要があり、同時にモノリンガル生徒に比べ多言語に触れているため、メタ言語意識（ことばについて意識的に考える力）が高いとされているが、それを活性化するためにも有効といえる。
 - 日本の地理、歴史、公民の教科書の中からいくつかの単元やテーマを取り上げるのは、高等科におけるテーマ別の学習に必要な基礎

知識を習得するためである。その際、授業の重点は、言語学習としての側面に置かれる。

- 日本、ヨーロッパ、その他の国々の相違点と共通点を批判的に省察させることで、二つの文化を背景とする生徒のもつ、文化や社会を比較する視点が育成される。これは、生徒が自分なりに創造的に思考し、判断し、行動する力の形成に貢献するものである。

3. 成績評価について

成績評価は次の方法で行う：

第 6-9 学年の成績評価

筆記点 50%	口頭点 50%
年間 4 回の試験 (Klassenarbeiten)	10% 平常点
	10% 口頭発表、プレゼンテーション
	15% 宿題
	15% 小テスト (漢字テストを含む)

試験の内容

作文形式の試験 (年に少なくとも 2 回) :	作文形式以外の試験 (下記内容の組み合わせなど)
第 6 学年: - 創作文 - 報告文 第 7 学年: - 説明文 (図表などの説明文) - 易しい意見文	第 6・7 学年: - 読解 - 文法 - 文字・漢字・表記・語彙等 - 日本の地理の基礎知識

<p>第 8 学年:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 要約文 (説明文の) - 意見文 (資料を引用して) <p>第 9 学年:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 要約文 (文学作品のあらすじ) - 要約文 (説明文の) - 資料を引用した説明文 	<p>第 8・9 学年:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読解 - 文法 - 文字・漢字・表記・語彙等 - 日本の歴史の基礎知識
---	---

第 10-12 学年の成績評価

筆記点 50%	口頭点 50%
<p>半期に 2 つの論述形式の試験を実施する (12 学年後期は 1 つ)</p> <p>課題の種類:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文学作品の分析 - 説明的文章の分析 - 文学作品についての弁証法型論証 - 説明的文章についての弁証法型論証 - 資料を引用した説明文 - 資料を引用した意見文 - 上記の課題の組み合わせ 	<p>10% 平常点</p> <hr/> <p>15% 口頭発表</p> <hr/> <p>15% 宿題</p> <hr/> <p>10% 小テスト (漢字テストも含む)</p>

第6学年			
身につける能力	教材 (出版社, 教科書の学年)	主な方法	時間
1. 聞くこと/見ること			
<p>1.1 聞く/見る力</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に身近なテーマに関する、 ・おおむね知っている語句を含み、 ・平易な言語的構造を持つ、 <p>視聴覚テキストを聞き/見、理解できる。</p> <p>- 視聴覚テキストについての課題に取り組み、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマをとらえ、 ・内容を全体的に/選択的にとらえて、再構成できる。 ・教師の指導のもとで、言語的・非言語的な表現の工夫の効果に気づき、 ・話し手のコミュニケーションの意図に気づくことができる。 <p>1.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> -言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、視聴覚テキストの理解に使うことができる。 -聞く/見るときに予想を立て、述べられる。 -聞く/見る方略を、教師の指導のもとで、課題に応じて、実行できる。 <p>すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを見つけ、それによって文脈を理解する。 ・情報をまとめる。 ・理解できなかった箇所を埋める。 	<p>視聴覚テキスト</p> <p>NHK for school http://www.nhk.or.jp/school/ 「見えるぞニッポン」シリーズ (3・4年生対象 日本の地理) 「未来広告ジャパン」シリーズ (5年生対象 日本の地理)</p> <p>本の紹介など 国語4年(光村図書)「聞き取りメモの工夫」</p>	<p>メモをとる</p>	<p>10</p>

<p>・ 教師の指導のもとでメモを作成する。</p> <p>1.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 聞く/見る状況、視聴覚テキスト、課題に応じて、集中して聞く/見ることができる。 - 課題に応じて、教師の指導のもとで、次のように聞く/見る活動ができる： <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意して意識的に聞くことができる。 ・ わからないことに焦点を当てて質問ができる。 ・ 様々な語り手の特徴（老若男女、方言、スタイルなど）に配慮できる。 - 聞いた/見たことについて他者と話しあい、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚テキストの情緒的な効果について表現できる。 ・ 理解する際の問題について話すことができる。 - 自分の聞く/見る力の伸びについて、教師の指導のもとで評価ができる。 			
2. 読むこと			
<p>2.1 読む力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に身近なテーマに関する、 ・ 知っている語彙を含み、 ・ 平易な言語的構造を持つ、 <p>-文章を読み、理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章を教師の指導のもとで分析し、理解できる。 <p>その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の情報を見つけることができる。 	<p>物語文（国語教科書、光村図書4年より）：</p> <p>「白いぼうし」</p> <p>「初雪のふる日」</p> <p>または</p> <p>「ごんぎつね」</p> <p>俳句（芭蕉、一茶）</p>	<p>しるしをつける、下線を引く</p>	<p>28</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の叙述に基づき、読み取ることができる。 ・ 書き手のものの考え方をとらえ、説明ができる。 ・ 文章の中心となる内容をまとめ、再構成ができる。 <ul style="list-style-type: none"> - テクストを、準備してから、意味がわかるように音読/朗読する。 - 多様な種類の文学作品をその特徴によって区別できる。 例えば、物語、童話、詩、俳句、短歌など。 - 文学的な作品を読み、分析し、理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 作者について情報を得られる。 ・ 登場人物と行動に関する情報を取り出し、分析できる。 ・ 教師の指導のもとで、重要な表現上の工夫とその働きに注目できる。 - 説明的な文章を読み、分析し、理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 連続的なテキスト（通常の文章）を理解する。例えば、描写文、語り、報告文、議事録など。 ・ 非連続的なテキストを理解する。例えば、表、地図、図、見取り図など。 ・ 筆者の意図を読み取る。 ・ 重要な表現上の工夫をとらえ、説明し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 重要な情報と補完的な情報を、教師の指導のもとで、区別できる。 ・ 事実と意見を、教師の指導のもとで区別できる。 <p>2.2 方法的能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、教師の指導のもとで活かし、読解に使うことができる。 - 読みの課題に応じて様々な読みの方略が使える： <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択的な読み方（特定の情報を見つけ、選ぶ読み方）。 ・ 方向性をつかむ読み方（全体像を得る読み方）。 ・ テキスト全体を読んで、重要なところを把握する。 	<p>説明文（国語教科書、光村図書4年より）：</p> <p>「大きな力を出す」 「動いて、考えて、また動く」 「アップとルーズで伝える」</p> <p>（社会教科書5年（日本の地理）、東京書籍 より）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本の国土 - 気候 - 米づくり - 水産業 - 自動車産業 		
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - テキストにおける見通しを持つ方法を使う。例えば： <ul style="list-style-type: none"> ・段落に分ける ・小見出しをつける ・キーワードをメモする ・参考となる情報を利用する - 読解の様々な方法を使う。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを用いる。 ・内容を予想する。 ・文章に分ける。 ・文章を言いかえる。 ・文章を書きかえる。 ・文章を終わりから考えて理解する。 ・文章を補う。 ・特定の観点から複数の文章を比較する。 ・文章を絵に描いてみる、図示する、場面として演じる。 - 学校図書館や公共図書館を教師の指導のもとで利用できる。 <p>2.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 複雑な課題に取り組むときに、自分で解決法を考え、実行できる。 - 決められた時間に自力で、注意して読める。 - 様々な媒体（メディア）の児童書や雑誌を、理由を明確にして選び、人に勧めることができる。 - 読んだ内容について他者と話すことができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに対し、自分の考えを述べ、他者とテキストについて話す。 ・テキストに対する自分の考えや気持ちを述べ、言葉あるいは言葉以外の方法で表現する。 ・読んだことについて自分の経験と比較する。 - 自分の読みの力について評価する。例えばポートフォリオを使って。 			
--	--	--	--

3. 話すこと			
<p>3.1 話す力</p> <p>対話的状況で話すこと（ディスカッション、ディベートなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準語で話す。 ・丁寧な話し方をする。 <ul style="list-style-type: none"> - 状況、相手、テーマに応じた会話への参加ができる。 - 学級で話し合いのルールを決めることができる。 - 複雑な質問ができ、答えられる。 - 複雑な発言を理解し、これに対して答えることができる。 <p>一人で話すこと（プレゼン、スピーチなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準語で話す。 ・丁寧な話し方をする。 <ul style="list-style-type: none"> - 目的に応じ、他者の前で話すことができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・物語る ・情報を与える。 ・自分の意見を主張する ・呼びかける ・理由を述べる ・説明する - 手本を参考に、テーマに関して話す。 - フリースピーチをする。 - 自分の言葉でテキストの内容について、情報の順序を守り、再構成する。 - 要約を述べる。 - 観察したことを話す。 - もの、手順、活動について説明する。 	<p>国語教科書（光村図書、4年）より</p> <p>「よりよい話し合いをしよう」</p> <p>国語教科書（光村図書、4年）より</p> <p>「だれもがかかわれるように」</p>	<p>討論する</p> <p>説明する</p> <p>ペアワーク、グループワーク</p> <p>短いスピーチ／プレゼンテーション</p> <p>結果をプレゼンテーションする。</p> <p>フィードバックをする。</p>	<p>28</p>

<ul style="list-style-type: none"> - 様々な種類のテキストを創作して発表する。 - 詩を暗記して朗読する。 <p>3.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 会話を始め、続けることができる - 内容をしぼって質問ができる - 発言や話し合いを状況に応じて計画できる。 - 学級で決めた話し合いのルールを適用できる。 - 学んだことをプレゼンテーションできる。 - 正しい順序で、終わりまでスピーチをすることができる。 - 状況を様々な劇の形で演じることができる。 <p>3.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 話し合いで相手に応じ発言ができる。 - 考えや気持ちを表現できる。 - 自分の考えを理由とともに述べることができる。 - 希望や軋轢を他者と討論して解決できる。 - 言語とジェスチャーの関係に注目できる。 - 聞き手に合わせスピーチができ、話し方の効果に気づくことができる。 - 決められた話の状況で自分自身の語彙を増やすことができる。 - 自分の学びの経験について話すことができる。 - 自分の言語学習について反省できる。 - 自分の話す力の伸びを評価できる。 			
4. 書くこと			
<p>4.1 書く力</p> <p>生徒は、</p>	<p>情報を伝えるテキスト（報告文） 手順、起きたことなどについての</p>		28

<p>- 文章を、書くことができる。その際： ・ 相手や目的に応じ、構成や基準にそって書くことができる。 - 構成に関する表現上の工夫を使うことができる。 ・ 題名をつけ、 ・ 書く内容に順序に注意し、 ・ 登場人物の会話を入れる。(物語作文の場合) - 書く課題にそってテキストを確かめ、 - 自分で推敲できる。 - 学んだことを整理してまとめ、発表できる。</p> <p>4.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <p>- 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、教師の指導のもとで、書くために使うことができる。 - テキストの作成の方法を使うことができる。 - 教師の指導のもとで書くことを計画できる。すなわち： ・ テーマにあったことばを集める ・ 情報をつつめ、整理してメモができる。 - 自分で、またお手本にそってテキストを ・ 書いたり、 ・ 創作して書いたり、 ・ 発表ができる。 - 言葉を自分で(国語辞典を用いて)調べ、正しい表記のために使うことができる。</p> <p>4.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <p>- 教師の指導のもとで、文章を書く計画をペアやグループで立て、実施しできる。 - テキストを ・ 読みやすい字で、 ・ 明確な形式で ・ スムーズに</p>	<p>報告文 手順の説明</p> <p>主張を伝えるテキスト ポスター 国語教科書(光村4年)から 「私の研究レポート」</p> <p>創作的なテキスト(創作文) 絵にそった創作文 絵を説明する 考えた物語を書く</p> <p>俳句を作る 国語教科書(光村4年)から 「短歌、俳句に親しもう」</p>	<p>絵、図、テキストの活用</p> <p>物語を書く</p> <p>俳句コンクールに参加する</p> <p>ノートの取り方</p> <p>文章を推敲する</p>	
---	--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・適切な速さで書くことができる。 - 推敲の作業で、他者にヒントをあげたり、もらったりできる。 - 色々な書く道具、材料、ノートの形式、文字などを選び、テキストを創造的に書くことができる。 - 文字について考えを深めることができる。 	毛筆で書道		
5. 言語とその使用・学習について省察する			
<p>5.1 言語事項の力</p> <p>生徒は、</p> <p><i>言葉のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字のつくりを見て、重要な部首を言ったり、特定したりできる。 - 教師の指導のもとで、知らない漢字を漢字辞典でひくことができる。 - 慣用句やことわざの意味を理解し、使うことができる。 - 熟語の構造を理解し、その知識を読み書きに活用できる。 - よく使われる多義語を理解し、使うことができる。 <p><i>文のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 教師の指導のもと、やさしい敬語を区別し、使うことができる。 - 接続語とその働きに気づき、使うことができる。 - 句読点を教師の指導のもとで正しく打つことができる。 - カギかっこを使える。 - 構文において、易しい修飾－被修飾の関係などに気づくことができる。 <p><i>文章レベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てを教師の指導のもとで理解できる。 - 言葉によるコミュニケーションを分析し、意図、言葉の特徴、働きの関係について考えを深めることができる： <p><i>言語の特質について</i></p>	<p>4年生の学習漢字 200 字</p> <p>国語教科書（光村4年）から</p> <p>「漢字の組み立て」</p> <p>「漢字辞典の使い方」</p> <p>「慣用句」</p> <p>「熟語の意味」</p> <p>「色々な意味をもつことば」（多義語）</p> <p>「文と文をつなぐことば」（接続語）</p>	漢字辞典を使う	18

<p>- 言葉の由来や変化の過程について気づくことができる。</p> <p>- 教師の指導のもとで、話し言葉と書き言葉を区別し、考えを深められる。</p> <p>- 日本語についての知識をドイツ語やその他の言語にも適用したり、その逆ができる。</p> <p>5.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の書き方を知り、次のことによって理由がいえる： <ul style="list-style-type: none"> ・重要な部首がわかる。 ・書き順に注意できる。 -語句の意味を、次の方法で説明できる： <ul style="list-style-type: none"> ・言い換え ・上位概念、下位概念 ・類義語、対義語 - 文の組み立て <ul style="list-style-type: none"> ・文末に注意したり比べたりできる。 ・接続表現とその働きを比べられる。 <p>-教師の指導のもとで、ことばや漢字を辞典で調べられる。</p> <p>- 教師の指導のもとで優しい言語の比較の方法を活用でき、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・共通点と相違点が説明できる。 ・言語の比較において結果と手順を決めることができ、他者に伝えられる。 </p> <p>5.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自分や他者の言語活動をとらえ、評価できる。 - 言葉のきまりに気づき、意識してそれを使うことができる。 - 言語や言語以外の現象に注目し、意識的に認識ができる。 - 表現の工夫を状況に応じて適切に使える。 			
---	--	--	--

第6学年

<ul style="list-style-type: none"> - 自分なりに、表記や文法的な間違いを避ける方法を、教師の指導のもとで、使うことができる。すなわち：. <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉を一緒に発音する。 ・ 言葉やその決まりを学ぶ。 ・ 大きな意味のまとまりごとに集中して、ただしく書く（書き写す）。 - 自分の力の伸びを、教師の指導のもとで評価できる。 			
---	--	--	--

第7学年			
身につける能力	教材 (出版社, 教科書の学年)	主な方法	時間
1. 聞くこと/見ること			
<p>1.1 聞く/見る力</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に身近なテーマに関する、 ・ おおむね知っている語句を含み、 ・ 平易な言語的構造を持つ、 <p>- 視聴テキストを聞き/見、理解し、加工できる。</p> <p>- 視聴覚テキストについての課題に取り組み、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマをとらえ、 ・ 内容を全体的に／選択的にとらえて、再構成できる。 ・ 教師の指導のもとで、言語的・非言語的な表現の工夫の効果に気づき、説明できる。 ・ 話し手のコミュニケーションの意図に気づくことができる。 	<p>視聴覚テキスト</p> <p>NHK for school http://www.nhk.or.jp/school/ 「見えるぞニッポン」シリーズ (3・4年対象 日本の地理) 「未来広告ジャパン」シリーズ (5年対象 日本の地理)</p> <p>国語5年(光村図書)「聞いて、聞いて、聞いてみよう」</p>		10

<p>1.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、視聴テキストの理解に使うことができる。 - 聞く/見るときに予想を立て、述べられる。 - 聞く/見る方略を、課題に応じて、場合によって教師の指導のもとで、実行できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを見つけ、それによって文脈を理解する。 ・ 情報を要約する。 ・ 理解できなかった箇所を埋める。 ・ 場合によって教師の指導のもとで、構成の明確なメモを作成する。 <p>1.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 聞く/見る状況、視聴覚テキスト、課題に応じて、集中して聞く/見ることができる。 - 課題に応じて、教師の指導のもとで、部分的には自分なりに、次のように聞く/見る活動ができる： <ul style="list-style-type: none"> ・ わからないことがあっても集中して聞くことができる。 ・ わからないことに焦点を当てて質問ができる。 ・ 様々な語り手の特徴（老若男女、方言、スタイルなど）に配慮できる。 - 聞いた/見たことについて他者と話しあい、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚テキストの情緒的な効果について表現できる。 ・ 理解する際の問題について話すことができる。 - 自分の能力の伸びについて教師の指導のもとで評価でき、場合によって記録できる。 		
---	--	--

2. 読むこと			
<p>2.1 読む力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に身近なテーマに関する、 ・知っている語彙を含み、 ・平易な言語的構造を持つ、 <p>- 文章を読み、理解することができる。</p> <p>- 文章の内容、言語的特徴、形式を、教師の指導のもとで分析し、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を説明する基礎的な概念を用いることができる。 ・文章の内容を要約し、中心となる内容を述べることができる。 ・情報を取り出し、整理し、加工できる。 ・テキストの内容を解釈できる。 ・構成や表現技法を分析しできる。 <p>-基本的な文章の種類を区別し、説明できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や形式の特徴を特定する。 ・構成、機能、効果を説明する。 <p>- スムーズに、意味が伝わるように、表現豊かに読み、音読/朗読する</p> <p>- 文学的な作品を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な作品の種類を区別する。 ・詩人／作者と語り手／話者と登場人物（善人と悪役）を区別する。 ・登場人物の行動、ふるまい、動機を分析し、評価する。 ・表現の工夫とその働きをとらえる。 <p>- 説明的な文章を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝える文章、意見を主張する文章、説明をする文章、決まりを 	<p>文学作品（国語教科書、光村図書5年より）：</p> <p>「あめ玉」</p> <p>「大造じいさんとガン」</p> <p>「百年後のふるさとを守る」</p> <p>「日常を十七音で（短歌）」</p> <p>説明文（国語教科書、光村図書5年より）：</p> <p>「見立てる」</p> <p>「生きものは円柱形」</p> <p>「天気を予想する」</p> <p>「千年の釘にいどむ」</p> <p>（社会教科書5年（日本の地理）、東京書籍 より）</p> <p>・「これからの食料生産とわたしたち」</p>	<p>テキストの分析</p> <p>グラフと表の分析</p>	<p>28</p>

<p>伝える文章を区別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な情報と補足的な情報を区別する。 ・連続的テキスト（通常の文章）および非連続的テキスト（図表など）の関連に気づき、理解する。 <p>2.2 方法的能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、場合によって教師の指導のもとで、読解に使うことができる。 - 読む目的に応じて、基本的な読みのスキルを使うことができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・特定のスピードで、スムーズに読む。 ・大意をつかむために斜め読みをする（スキミング）。 ・詳しく選択的に拾い読みをする（スキヤニング）。 - 読解の方略を、教員の指導のもとでテキストの解釈に活用できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・内容を予想を立て、それを活用する。 ・文章のテーマや対象について推測をして述べる。 ・文章についての問いを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> - 文脈から、 - 辞書を引くことによって、 ・語句の意味を理解する。 ・重要な箇所や概念に気づき、印をつける。 ・重要な情報をキーワードでメモをする。 ・文章を意味のまとまりに分ける。 ・小見出しを選んだり、自分でつける。 ・読んだ結果をまとめて書き留める。 ・文章の内容を説明したり、図や表にまとめる。 - テキストを目的に応じて分析できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報産業とわたしたちの暮らし」 ・「わたしたちの生活と環境」 		
--	---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - 解釈あるいは読みの結果のプレゼンテーションに適した情報媒体（メディア）を教師の指導のもとで選び、利用できる。 - 学校図書館や公共図書館を、場合によって教師の指導のもとで、利用できる。 <p>2.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読む課題に積極的に意欲をもって取り組むことができる。 - 読む状況、テキスト、課題に合わせ、集中して読むことができる。 - テキストの内容に積極的に批判的にかかわることができる。 <p>-読んだ経験について他者と交流し、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にしてテキストについての考えを表現する。 ・ 他者の視点からも問題、順序、人物、出来事についてみることができる。 <ul style="list-style-type: none"> -自分の読む方略を教師の指導のもとで観察し、評価できる。 - 読みの活動についてのヒントを実行できる。 -自分の力の伸びを教師の指導のもとで評価したり、場合によって記録できる。 - 読みの成果についての発表を、教師の指導のもとで、基準に沿って、公正に評価できる。 			
3. 話すこと			
<p>3.1 話す力</p> <p>対話的状況で話すこと（ディスカッション、ディベートなど）</p> <p>生徒は、</p>	<p>国語教科書、光村図書5年より： 「意見が対立したときには」</p>	<p>ディスカッションする主張する</p>	<p>28</p>

<p>- 知っているテーマについての話し合いができる。その際： ・ 標準語で、丁寧な話し方で話せる。 ・ 相手や場の状況に応じて会話に参加できる。</p> <p>-話し合いにおいて自分の話す目的を達成できる。すなわち： ・ 情報を収集したり、伝えたりする。 ・ 意見、希望、要求を適切に発表したり、場合によって理由を述べる事ができる。</p> <p>- 決められたパターンで、他者の発言に関連した発言ができる。</p> <p>- 話しあいの成果を述べる事ができる。</p> <p>- テキストを劇の形で演じることができる。： ・ 自分の体験や状況を劇のような形で演じる。 ・ 文学的なテキストを対話の形にする。 ・ 即興で演じる。</p> <p>一人で話すこと（プレゼン、スピーチなど）</p> <p>生徒は、</p> <p>- 特に身近なテーマに関して、他者の前で、あるいは他者に対し、話すことができる。その際： ・ 様々な状況を、場合によって教師の指導のもとで、区別する。 ・ 標準語を意識して使用できる。 ・ 相手や状況に応じて話す。 ・ 言語および非言語的手段（例 ジェスチャ、アイコンタクトなど）を、教師の指導のもとで、使用できる。</p> <p>- 口頭での表現の様々な形式を区別し、教師の指導のもとで使うことができる。すなわち： ・ 創作したことを話す。 ・ 自分の体験や考えた話を語ったり、再話ができる。 ・ さまざまな視点から語ったり、再話ができる。 ・ テキストに意味を持たせ、原稿を使い、あるいは持たずに話したり、</p>	<p>国語教科書、光村図書5年より： 「すいせんします」</p>	<p>ペアワーク グループワーク</p> <p>スピーチ コメントをする 資料を作成する</p>	
--	--	---	--

<p>朗読したりできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的に構成して話す。 ・ 体験、出来事、経験について報告できる。 ・ 事物、映像、生き物、手順について記述できる。 ・ 事物や生き物を比較できる。 ・ 理由を述べて主張ができる。 ・ 情報を伝えたり、簡単な活動の導入としての短いスピーチができる。 <p>3.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、教師の指導のもとで活用して、話すことができる。 - 話すための計画を、教師の指導のもとで、作成し、守って実施できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を集め、整理し、状況に合わせて使う。 ・ メモと作って、自由なスピーチに使う。 ・ 資料やプレゼンテーション技術を選び、使用する。 - 暗記の方法を、教師の指導のもとで、活用する。 <p>3.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 課題に応じ、自分の言葉の使い方を、場合によって教師の指導のもとで工夫できる。 - 自分と他者の言葉の使い方や話し合い方を、基準に沿って評価できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 強みと弱みに教師の指導のもとで気づくことができる。 ・ 話し方についてヒントを与えたり、もらったり、実行したりできる。 - 話し合いのルールを教師の指導のもとで決め、守る。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意して聞き、他者にも発言の機会を与える。 			
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマからそれない。 ・ わからなかったことについて適切に質問ができる。 <ul style="list-style-type: none"> - 協働学習の際に、発言したことに対する責任を取る。 - 自分の力の伸びを教師の指導のもとで評価できる。 			
4. 書くこと			
<p>4.1 書く力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章を、決められた基準にそって、教師の指導のもとで書くことができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な書く目的を区別し、 ・ 相手に応じて書く。 ・ 自分の書こうとすることを実現できる。 ・ 文章の主要な型を適切に使用して書ける。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかける ・ 意見を述べる ・ 表現する ・ 情報を伝える - 教師の指導のもとで、形式のある文章を書くことができる。 - 課題に応じて、書くという活動の成果を表現することができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 連続的テキスト（通常の文章）および非連続的テキスト（図表など）の内容を自分の言葉で再構成し、自分の意見を述べるができる。 ・ テキストについての疑問を述べ、答えることができる。 - 作業と学習の過程について、教師の指導のもとで記録することができる。 	<p>情報を伝えるテキスト（説明文） 手紙文、メール文 国語教科書、光村図書5年より： 「通信文のいろいろ」 「グラフや表を用いて書こう」</p> <p>主張を伝えるテキスト（意見文） 国語教科書、光村図書5年より： 「想像力のスイッチを入れよう」</p> <p>創作的なテキスト 俳句</p>	<p>テキストを分析し、構成して書く</p> <p>俳句をつくる 「おーいお茶俳句コンクール」参加</p>	28

<p>- 作品を基準にそって書くことができる。</p> <p>4.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、場合によって教師の指導のもとで、書くために使うことができる。 - テクストの作成の方法を使うことができる。 - 書く過程を、教師の指導のもとで計画できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 書く目的を決められる。 ・ アイデアを集める適切な方法を使うことができる。 ・ キーワードを構造化できる。 ・ 書くための計画を立てることができる。 - テクストを作成できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ テクストの構成を工夫し、 ・ 語を適切に使用する。 - 手本から正しく確実に大きな意味のまとまり単位で書き写すことができる。 <p>4.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 書く過程を教師の指導のもとで、ペアやグループで計画し、実施できる。 - 書くことの目標を徹底して守ることができる。 - テクストを、 			
--	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 読みやすい字で、 ・ 適切な形式で、 ・ 適切なスピードで、 書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> - 自分や他者のテキストと批判的にかかわることができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者のテキストを、公正に評価し、良いところをほめることができる。 ・ 与えられた基準を守ることを評価し、気づいたことを問うことができる。 ・ 推敲のためのヒントを与えたり、自分がもらったり、実行できる。 - 自分および他者の書いたものをペアで、あるいはグループで、与えられた基準にそって、教師の指導のもとで推敲できる。 - 自分の書く能力の伸びを、教師の指導のもとで評価し、場合によって記録できる 			
5. 言語とその使用・学習について省察する			
<p>5.1 言語事項に関する力</p> <p>生徒は、</p> <p><i>言葉のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の起源について触れ、知らない漢字の意味について推測をすることができる。 - 和語、漢語、外来語に気づき、言語使用の変化をとらえることができる。 - 複合語の意味を、場合によって教師の指導のもとで分析し、その知識をある程度自分で、読んだり書いたりすることに、活用できる。 - 熟語の構成を理解し、場合によって教師の指導のもとで、その知識を読んだり書いたりすることに、活用できる。 	<p>5年生の漢字（185字）</p> <p>国語教科書、光村図書5年より：</p> <p>「漢字の成り立ち」</p> <p>「和語、漢語、外来語」</p> <p>「複合語」</p> <p>「敬語」</p>	<p>語句を理解する方法</p> <p>国語辞典、漢字辞典を使う</p>	<p>18</p>

<p>文のレベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な敬語を、教師の指導のもとで区別し、使用することができる。 - 句読点がある程度自分で正しく打つことができる。 - カギかっこを使える。 - 平易な文と平易な構造の組み合わせられた文を、教師の指導のもとで区別し、作ることができる。 <p>文章レベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てを、教師の指導のもとでとらえ、説明することができる。 - 言語と形式の特徴に気づき、その効果を説明できる。 <p>言語の特質について</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の変化とそのプロセスの基本的な事項に気づくことができる。 - 言語使用のいくつかの変化をとらえられる。 - 話し言葉と書き言葉の違いに気づき、場合によって教師の指導のもとで、正しく使うことができる。 - 日本語の知識をドイツ語やその他の言語の学習に適用したりできる、またその逆ができる。 <p>5.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の書き方を、次のことによって理解し、説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・よく用いられる同音異義語を区別する。 ・平易な漢字の音と部首との関係を理解する。 - 語句の意味を、 <ul style="list-style-type: none"> ・言い換えによって、 ・下位概念と上位概念によって、 ・同じ意味ないし反対の意味の語によって、 ・熟語の構成や成り立ちに気づくことによって、 理解できる。 	<p>「わかりやすく伝える」</p>		
--	--------------------	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - 文の組み立て <ul style="list-style-type: none"> ・文末に注意し、比較できる。 ・接続語とその効果を比較できる。 ・敬体と常体が区別できる。 - 辞書で語や漢字を、ある程度自分で調べられる。 - 言語の比較の基本的な技能を、場合によって教師の指導のもとで、使用できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・共通点と相違点を説明できる。 ・言語を比較してわかったことや、比較の仕方について書き留め、他者に伝えることができる。 <p>5.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自分と他者の言語使用をとらえ、評価できる。 - 言葉の決まりを認め、意識的にこれを使用できる。 - 言語的・非言語的な現象に注目し、意識することができる。 - 表現の工夫を、状況に応じて適切に使うことができる。 - 表記および文法的な間違いを避けるために、自分なりの方略を、場合によって教師の指導のもとで使うことができる： <ul style="list-style-type: none"> ・語を発音しながら、 ・語と規則を覚え、 ・大きな意味のまとまりごとに、注意して適切に書いたり、書き写したりする。 - 自分の力の伸びを、場合によって教師の指導のもとで評価できる。 			
---	--	--	--

第8学年			
身につける能力	教材 (出版社, 教科書の学年)	主な方法	時間
1. 聞くこと/見ること			
<p>1.1 聞く/見る力</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマに関する ・知っている語句と、知らないが、大体解釈できる語句を含み、 ・部分的に複雑な言語的構造を持つ、 - 視聴テキストを聞き/見、理解し、加工し、解釈できる。 <p>- 視聴覚テキストについての課題に取り組み、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマと主な主張をとらえ、まとめることができる。 ・ 内容を全体的に、選択的に、あるいは詳しくとらえて、再構成できる。 ・ 言語的・非言語的な表現の工夫の効果に気づき、コミュニケーション状況の中に位置づけることができる。 ・ コミュニケーションの意図に気づき、説明できる。 <p>1.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> -言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、視聴テキストの理解に使うことができる。 <p>-聞く/見るときに予想を立て、述べられる。</p> <p>-聞く/見る方略を、課題に応じて、場合によって教師の指導のもとで、実行できる。すなわち：</p>	<p>視聴覚テキスト</p> <p>NHK for school http://www.nhk.or.jp/school/ 「歴史にドキリ」シリーズ (6年対象 日本の歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卑弥呼 ・ 聖徳太子 ・ 聖武天皇 ・ 藤原道長 		10

<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを見つけ、それによって文脈を理解する。 ・ 情報を要約する。 ・ 理解できなかった箇所を埋める。 ・ 場合によって教師の指導のもとで、構成の明確なメモを作成する。 <p>1.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 聞く/見る状況、視聴覚テキスト、課題に応じて、集中して聞く/見ることができる。 - 課題に応じて、教師の指導のもとで、部分的には自分なりに、次のように聞く/見る活動ができる： <ul style="list-style-type: none"> ・ わからないことがあっても集中して聞くことができる。 ・ わからないことに焦点を当てて質問ができる。 ・ 様々な語り手の特徴に配慮できる。(老若男女、方言、スタイル…など) - 聞いた/見たことについて他者と話しあい、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚テキストの情緒的な効果について表現できる。 ・ 理解する際の問題について話すことができる。 - 自分の能力の伸びについて教師の指導のもとで評価でき、場合によって記録できる。 			
2. 読むこと			
<p>2.1 読む力</p> <ul style="list-style-type: none"> - 生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に身近なテーマに関する、 ・ 知っている語彙を含み、 ・ 平易な言語的構造を持つ、 - 文章を読み、理解することができる。 	<p>文学作品（国語教科書、光村図書6年より）：</p>		28

<ul style="list-style-type: none"> - 文章の内容、言語的特徴、形式を、部分的に教師の指導のもとで、分析し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を説明する基礎的な概念を用いることができる。 ・ 文章の内容を要約し、中心となる内容を述べるができる。 ・ 情報を取り出し、整理し、加工できる。 ・ テキストの内容を解釈できる。 ・ 構成や表現の工夫を分析できる。 - 基本的な文章の種類を区別できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容や形式の特徴を特定する。 ・ 構成、機能、効果を説明する。 - スムーズに、意味が伝わるように、表現豊かに読み、音読/朗読する - 文学的な作品を読み、分析し、理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な作品の種類を区別する。 ・ 詩人／作者と語り手／話者と登場人物（善人と悪役）を区別する。 ・ 登場人物の行動、ふるまい、動機を分析し、評価する。 ・ 文章とその背景の時代の関連性について、教師の指導のもとで注目することができる。 ・ 表現の工夫とその働きをとらえる。 - 説明的な文章を読み、分析し、理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を伝える文章、意見を主張する文章、説明をする文章、決まりを伝える文章を区別する。 ・ 重要な情報と補足的な情報を区別する。 ・ 連続的テキスト（通常の文章）および非連続的なテキスト（図表など）の関連に気づき、理解する。 <p>2.2 方法的能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知 	<p>「カレーライス」 「やまなし」 「鳥獣戯画」 「短歌・俳句」</p> <p>説明文（国語教科書、光村図書6年より）： 「笑うから楽しい」 「時計の時間と心の時間」 「かなえられた願い」 「自然に学ぶ暮らし」 「イーハトーブの夢」</p> <p>（社会教科書6年（日本の歴史）、東京書籍 より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縄文・弥生時代 ・ 聖徳太子 ・ 大化の改新 ・ 大仏 ・ 貴族と藤原道長 	<p>絵の分析</p>	
--	--	-------------	--

<p>識を、ある程度自分で、読解に使うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読む目的に応じて、基本的な読みのスキルを使うことができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定のスピードで、スムーズに読む。 ・ 大意をつかむために斜め読みをする（スキミング）。 ・ 詳しく選択的に拾い読みをする（スキヤニング）。 - 読解の方略を、場合によって教員の指導のもとでテキストの解釈に活用できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を予想したり、それを活用する。 ・ 文章のテーマや対象について推測をして述べる。 ・ 文章についての問いを立てる。 ・ 語句の意味を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> - 文脈から、 - 辞書を引くことによって、 ・ 重要な箇所や概念に気づき、印をつける。 ・ 重要な情報をキーワードでメモをする。 ・ 文章を意味のまとまりに分ける。 ・ 小見出しを選んだり、自分でつける。 ・ 読んだ結果をまとめて書き留める。 ・ 文章の内容を説明したり、図や表にまとめる。 - テキストを目的に応じて分析できる。 - 解釈あるいは読みの結果のプレゼンテーションに適した情報媒体（メディア）をある程度自分で選び、利用できる。 - 学校図書館や公共図書館を、ある程度自分で、利用できる。 <p>2.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読む課題に積極的に意欲をもって取り組むことができる。 			
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - 読む状況、テキスト、課題に合わせ、集中して読むことができる。 - テキストの内容に積極的に批判的にかかわることができる。 -何かを読んだ経験について他者と交流し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にしてテキストについての考えを表現する。 ・ 他者の視点からも問題、順序、人物、出来事についてみる可以尝试。 -自分の読む方略を、ある程度自分で観察し、評価できる。 - 読みの活動についてのヒントを実行できる。 -自分の力の伸びを、場合によって教師の指導のもとで評価したり、場合によって記録もできる。 - 読みの成果についての発表を、ある程度自分で、基準に沿って、公正に評価できる。 			
<p>3. 話すこと</p>			
<p>3.1 話す力</p> <p>対話的状況で話すこと（ディスカッション、ディベートなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 知っているテーマについての話し合いができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準語で、丁寧な話し方で話せる。 ・ 相手や場の状況に応じて会話に参加できる。 -話し合いにおいて自分の話す目的を達成できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集したり、伝えたりする。 ・ 意見、希望、要求を適切に発表したり、場合によって理由を述べることができる。 	<p>国語教科書、光村図書6年より： 「学級討論会をしよう」</p>	<p>ディスカッションする主張する</p>	<p>28</p>

<ul style="list-style-type: none"> - 決められたパターンで、他者の発言に関連した発言ができる。 - 話しあいの成果を述べることができる。 - テクストを劇の形で演じることができる。： <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の体験や状況を劇のような形で演じる。 ・ 文学的なテキストを対話の形にする。 ・ 即興で演じる。 <p>一人で話すこと（プレゼン、スピーチなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 特に身近なテーマに関して、他者の前で、あるいは他者に対し、話すことができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な状況を、場合によって教師の指導のもとで、区別する。 ・ 標準語を意識して使用できる。 ・ 相手や状況に応じて話す。 ・ 言語および非言語的な手段（例 ジェスチャ、アイコンタクトなど）を、場合によって教師の指導のもとで、使用できる。 ・ 事物、映像について説明でき、出来事（例 歴史的な人物や出来事）についての情報を伝えられる。 ・ 事物や生き物を比較できる。 ・ 理由を述べて主張ができる。 ・ 情報を伝える短いスピーチや、なじみのあるテーマについての議論ができる。 <p>3.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、教師の指導のもとで活用して、話すことができる。 - 話すための計画を、教師の指導のもとで、作成し、守って実施できる。その際： 	<p>プレゼンテーション</p> <p>国語教科書、光村図書6年より：</p> <p>「今、私は、ぼくは」</p>	<p>プレゼンテーション</p>	
--	---	------------------	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を集め、整理し、状況に合わせて使う。 ・ メモを作って、自由なスピーチに使う。 ・ 資料やプレゼンテーション技術を選び、使用する。 <p>- 暗記の方法を、場合によって教師の指導のもとで、活用する。</p> <p>3.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 課題に応じ、自分の言葉の使い方を、ある程度自分で工夫できる。 - 自分と他者の言葉の使い方や話し合い方を、基準に沿って評価できる： <ul style="list-style-type: none"> ・ 強みと弱みに、場合によって教師の指導のもとで気づくことができる。 ・ 話し方についてヒントを与えたり、もらったり、実行したりできる。 - 話し合いのルールを、多少自分たちで決め、守る。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意して聞き、他者にも発言の機会を与える。 ・ テーマからそれない。 ・ わからなかったことについて適切に質問ができる。 - 協働学習の際に、発言したことに対する責任を取る。 - 自分の力の伸びを教師の指導のもとで評価でき、場合によって記録できる。 			
4. 書くこと			
<p>4.1 書く力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章を、ある程度自分で、決められた基準にそって書くことができる。その際： 			28

<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な書く目的を区別し、 ・ 相手に応じて書く。 ・ 自分の書こうとすることを実現できる。 ・ 文章の主要な型を適切に使用して書ける。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかける（意見文） ・ 意見を述べる（意見文） ・ 表現する（創作など） ・ 情報を伝える（要約文） ために書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> - ある程度自分で、形式のある文章を書くことができる。 - 課題に応じて、書くという活動の成果を表現することができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の情報を要約し、自分の意見を述べるができる。 ・ 連続的テキスト（通常の文章）および非連続的テキスト（図表など）の言いたいことを説明し、理由を述べるができる。 - 作業と学習の過程について、ある程度自分で記録することができる。 - 作品を基準にそって書くことができる。 <p>4.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、ある程度自分の力で、書くために使うことができる。 - テキストの作成の方法を使うことができる。 - 書く過程を、ある程度自分で計画できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を決めてそのために書く材料やアイデアを集められる。 ・ キーワードを構造化できる。 ・ 書くための計画を立てることができる。 	<p>情報を伝えるテキスト（要約文） 国語教科書、光村図書6年より： 「かなえられた願い」 文章を要約する</p> <p>主張を伝えるテキスト（意見文） 国語教科書、光村図書6年より： 「平和について考える」</p> <p>創作的なテキスト 俳句 随筆を書く 国語教科書、光村図書6年より： 「随筆を書こう」</p>	<p>テキストを分析し、構成して書く</p> <p>書くための会議</p> <p>俳句をつくる 「おーいお茶俳句コンクール」参加</p> <p>絵の分析</p>	
--	--	---	--

<p>-文章を作成できる。その際： ・文章を論理的に構成できる。 ・正しい言葉の規則（例 文法、表記のルールなど）に従うことができる。</p> <p>- 教師の指導のもとで、文章の内容面・言語面の推敲を行い、その際、辞書やワープロを使うことができる。</p> <p>4.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <p>- ある程度自分で、書く過程をペアやグループで計画し、実施できる。</p> <p>- 書くことの目標を徹底して守ることができる。</p> <p>- テキストを、 ・読みやすい字で、 ・適切な形で、 ・適切なスピードで、 書くことができる。</p> <p>- 自分や他者のテキストと批判的にかかわることができる。その際： ・他者のテキストを、公正に評価し、良いところをほめることができる。 ・与えられた基準を守ることを評価し、気づいたことを問うことができる。 ・推敲のためのヒントを与えたり、自分がもらったり、実行できる。</p> <p>- 自分および他者の書いたものをペアで、あるいはグループで、与えられた基準にそって、ある程度自分で推敲できる。</p> <p>- 自分の書く能力の伸びを、ある程度自分で評価し、場合によって記録できる。</p>		
---	--	--

5. 言語とその使用・学習について省察する			
<p>5.1 言語事項に関する力</p> <p>生徒は、</p> <p>言葉のレベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の起源について触れ、知らない漢字の意味について推測をすることができる。 - 和語、漢語、外来語に気づき、言語使用の変化をとらえることができる。 - 複合語の意味を、場合によって教師の指導のもとで分析し、その知識をある程度自分で、読んだり書いたりすることに、活用できる。 - 熟語の構成を理解し、ある程度自分で、その知識を読んだり書いたりすることに、活用できる。 <p>文のレベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な敬語を、概ね区別し、使用することができる。 - 句読点をある程度自分で正しく使うことができる。 - カギかっこを概ね正しく使える。 - 平易な文と平易な構造の組み合わせられた文を区別し、作ることができる。 - 教師の指導のもとで直接引用と間接引用を区別し、文を作ることができる。 <p>文章レベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てを、ある程度自分でとらえ、説明することができる。 - 言語と形式の特徴に気づき、その効果を説明できる。 <p>言語の特質について</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の変化とその変化のプロセスの基本的な事項に気づくことができる。 - 言語使用のいくつかの変化をとらえられる。 	<p>6年生の漢字（181字）</p> <p>国語教科書、光村図書5年より：</p> <p>「漢字の形と音・意味」</p> <p>「熟語の成り立ち」</p> <p>「表現を選ぶ」</p> <p>「日本語で使う文字」</p> <p>「生活の中のことば」</p>	<p>語句を理解する方法</p> <p>国語辞典、漢字辞典を使う</p>	<p>18</p>

<ul style="list-style-type: none"> - 話し言葉と書き言葉の違いに気づき、概ね正しく使うことができる。 - 日本語の知識をドイツ語やその他の言語の学習に適用したりできる、またその逆ができる。 <p>5.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の書き方について、次のことによって理解し、説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同音異義語を区別できる。 ・ 漢字の音と部首との関係を理解できる。 - 語句の意味を、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言い換えによって、 ・ 下位概念と上位概念によって、 ・ 同じ意味ないし反対の意味の語によって、 ・ 熟語の構成や成り立ちに気づくことによって、 理解できる。 - 文の組み立て <ul style="list-style-type: none"> ・ 文末に注意し、比較できる。 ・ 接続語とその効果を比較できる。 - 教師の指導のもとで常体で書くことができる。 - 辞書で語や漢字を、概ね自分で調べられる。 - 言語の比較の基本的な技能を、ある程度自分で使用できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通点と相違点を説明できる。 ・ 言語を比較してわかったことや、比較の仕方について書き留め、他者に伝えることができる。 <p>5.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自分と他者の言語使用をとらえ、評価できる。 		
---	--	--

第8学年

<ul style="list-style-type: none"> - 言葉の決まりを認め、意識的にこれを使用できる。 - 言語的・非言語的な現象に注目し、意識することができる。 - 表現の工夫を、相手や状況に応じて適切に使うことができる。 - 表記および文法的な間違いを避けるために、ある程度自分で、自分なりの方略を使うことができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・語を発音しながら、 ・語と規則を覚え、 ・大きな意味のまとまりごとに、注意して適切に書いたり、書き写したりする。 - 自分の力の伸びを、ある程度自分で評価できる。 			
---	--	--	--

第9学年			
身につける能力	教材 (出版社, 教科書の学年)	主な方法	時間
1. 聞くこと/見ること			
<p>1.1 聞く/見る力</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマに関する、 ・知っている語句と、知らないが、大体解釈できる語句を含み、 ・部分的に複雑な言語的構造を持つ、 <p>- 視聴覚テキストを聞き/見、理解し、加工し、解釈できる。</p> <p>- 視聴覚テキストについての課題に取り組み、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマと主な主張をとらえ、まとめることができる。 ・内容を全体的に、選択的に、あるいは詳しくとらえて、再構成できる。 ・言語的・非言語的な表現の工夫の効果に気づき、コミュニケーション 	<p>視聴覚テキスト</p> <p>NHK for school http://www.nhk.or.jp/school/ 「歴史にドキリ」シリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> - 源頼朝／義経 - 織田信長 - 豊臣秀吉 - 徳川家康 	<p>TV番組／映像を分析する</p>	<p>10</p>

<p>状況の中に位置づけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの意図に気づき、説明できる。 <p>1.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、視聴テキストの理解に使うことができる。 - 聞く/見るときに予想を立て、述べられる。 - 聞く/見る方略を、課題に応じて、ある程度自分で選び、実行できる。 <p>すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを見つけ、それによって文脈を理解する。 ・ 情報を要約する。 ・ 理解できなかった箇所を埋める。 ・ 教師の指導のもとで構成の明確なメモを作成する。 ・ 覚書を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> - 視聴覚テキストの様々なバージョンの効果を、場合によって教師の指導のもとで、比較できる。 <p>1.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 聞く/見る状況、視聴覚テキスト、課題に応じて、集中して聞く/見ることができる。 - 課題に応じて、ある程度自分で、次のように聞く/見る活動ができる： <ul style="list-style-type: none"> ・ わからないことがあっても集中して聞くことができる。 ・ わからないことに焦点を当てて質問ができる。 ・ 様々な語り手の特徴に配慮できる。(老若男女、方言、スタイル…など) - 聞いた/見たことについて他者と話しあい、その際： 	<p>テーマ「原爆」についての映画など</p>	<p>修学旅行（広島）</p>	
---	-------------------------	-----------------	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚テキストの情緒的な効果について表現できる。 ・ 理解する際の問題について考えを深めることができる。 <p>- 自分の能力の伸びについて大体自分で評価し、場合によって記録できる。</p>			
2. 読むこと			
<p>2.1 読む力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマに関する、 ・ 大体知っている語彙を含み、 ・ 部分的に複雑な言語的構造を持つ、 <p>- 文章を読み、理解することができる。</p> <p>- 文章の内容、言語的特徴、形式を、概ね自分で分析し、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を説明する専門用語を用いる。 ・ 中心となる内容を分析する。 ・ 情報を取り出し、整理し、加工し、比較する。 ・ テキストの内容を解釈し、評価する。 ・ 構成や表現の工夫の機能と効果を分析し、説明する。 <p>- 多様な文章の種類を区別し、説明できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種類やジャンルによる特徴を特定する。 ・ 意図、機能、効果を説明する。 ・ 多様な表現媒体（メディア）の機能に気づき、評価する。 <p>- スムーズに、意味が伝わるように、表現豊かに読み、場面が伝わるよう音読/朗読する</p> <p>- 文学的な作品を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品のジャンルの特徴を特定する。 ・ 作者と事実と作品を関連づける。 	<p>文学作品（国語教科書より）：</p> <p>「きつねの窓」（学校図書、小6）</p> <p>「海のいのち」（東京書籍、小6）</p> <p>「風切るつばさ」（東京書籍、小6）</p>		28

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景がわかる。 ・重要な表現上の工夫を、作品のジャンルに応じてとらえ、説明する。 <p>- 説明的な文章を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな表現媒体（メディア）における連続的テキスト（通常の文章）および非連続的なテキスト（図表など）の特徴と機能をとらえる。 ・筆者の意図を読み取る。 ・重要な表現上の工夫をとらえ、説明し、その際： ・筆者の思考の流れを、場合によって教師の指導のもとで捉える。 ・事実と意見を区別する。 ・根拠を明確にして自分の考えをもつ。 <p>- 多様なメディアを主に自分で区別し、利用する。すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その機能と効果をとらえる。 ・基本的な表現の工夫を説明する。 ・様々な利用や受容の方法（どのように情報を用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を広げることができるかなど）について考える。 <p>2.2 方法的能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、読解に使うことができる。 <p>- 読む目標に応じて、主に自分で読みのスキルを使うことができる。すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに読む。 ・大意をつかむために斜め読みをする（スキミング）。 ・詳しく選択的に拾い読みをする（スキヤニング）。 <p>- 読解の方略をある程度自分でテキストの解釈に活用できる、すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を予想したり、これまでの読みの経験を活用する。 	<p>「ヒロシマのうた」（東京書籍、小6）</p> <p>「俳句」</p> <p>説明的文章（国語教科書より）</p> <p>「自分の脳を自分で育てる」（学校図書、小6）</p> <p>「新聞の投書を読み比べよう」（東京書籍、小6）</p> <p>「未来に生かす自然のエネルギー」（東京書籍、小6）</p> <p>または</p> <p>「食感のオノマトペ」（三省堂、中1）</p> <p>歴史の教科書（東京書籍、小6）</p> <p>から：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代 ・室町時代 ・安土桃山時代 ・江戸時代 	<p>グラフや表の読み取り</p>	
---	---	-------------------	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章のテーマや対象について推測をして述べる。 ・ 文章についての問いを立てる。 ・ 語句の意味を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> - 文脈から、 - 自分で調べることによって、 ・ 重要な箇所印をつける。 ・ キーワードを見つけたり、メモをしたりする。 ・ 文章を意味のまとまりに分ける。 ・ 小見出しをつける。 ・ 読んだ結果を整理してまとめる。 ・ 文章の内容や構成を視覚化する。 <p>- テクストを目的に応じて分析できる。</p> <p>- 解釈あるいは読みの結果のプレゼンテーションに適した情報媒体（メディア）を概ね自分で選び、利用できる。</p> <p>- 学校図書館や公共図書館を自分で利用できる。</p> <p>2.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読みの課題にある程度自分で取り組むことができる。 - 読みの状況、文章、課題に合わせ、集中して読むことができる。 - 自分の読みの経験や関心について考え、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容に対し、批判的に接近できる。 ・ 自分にとっての文章の意味を考えられる。 ・ 美的な理解の仕方を身につける。 -何かを読んだ経験について他者と交流し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にして文章についての考えを表現する。 ・ 他者の感じ方、考え方、行動の表現として文学を理解する。 ・ 個人的な真実や表現された真実と関連づける。（例 作者の生い立ちな 			
---	--	--	--

<p>どと作品の示す真実、読み手である生徒自身の経験と作品の示す真実など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な解釈の可能性を検討し、認めることができる。 - 決められた基準に沿って自分の読みの過程を評価できる。 - 読む活動についてのヒントを実行し、反省できる。 - 決められた基準に沿って自分の力の伸びを評価したり、場合によって記録できる。 - 読みの成果についての発表を基準に沿って、公正に評価する。 			
<p>3. 話すこと</p>			
<p>3.1 話す力</p> <p>対話的状況で話すこと（ディスカッション、ディベートなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - おおむね知っているテーマについての話し合いができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準語で、丁寧な話し方で話す。 ・ 適切な言葉で、相手や場の状況に応じて発言ができる。 - 話し合いにおいて次の目的で発言ができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集したり、伝えたりする。 ・ 問題や関連を説明したり、コメントしたりする。 ・ 意見や希望を適切に述べ、場合によって客観的に理由を明確にして述べる。 - 他者の発言を取り上げ、これに関連した発言ができる。 - 教師の指導のもとで、話し合いの進行や内容を準備し、ある程度自分たちで進めることができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを始め、 ・ 問題点を明確にし、 ・ 結果をまとめることができる。 	<p>「パネルディスカッションをしよう」（学校図書、小6国語）</p>	<p>議論する</p>	<p>28</p>

<p>- テクストを劇の形で演じることができる。すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇らしい場面を演じる。 - 実際に起きたことや架空の出来事のロールプレイをする。 <p>一人で話すこと（プレゼン、スピーチなど）</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマに関して、他者の前で、あるいは他者に対し、話すことができる。その際： ・ 様々な状況を区別する。 ・ 標準語と専門用語をある程度の確に使用できる。 ・ 相手や状況に応じて話す。 ・ 言語および非言語的な手段（例 ジェスチャ、アイコンタクトなど）を、ある程度自分から使用できる。 <ul style="list-style-type: none"> - 口頭での表現の様々な形式を、ある程度自分で区別し、使うことができる。すなわち： ・ 創作したことを話す。 ・ 様々な視点から語ったり、再話ができる。 ・ テクストに意味を持たせ、原稿を使い、あるいは持たずに話したり、朗読したりできる。 ・ 客観的に構成して話す。 ・ 文学的および非文学的なテキストの大まかな情報、ないし詳しい情報を再生し、また要約する。 ・ 出来事、手順を報告する。 ・ 対象（映像作品、生きもの、手順など）を説明し、比較する ・ 人物や登場人物の人物像をとらえて説明する ・ 情報を伝える短いプレゼンテーションや議論の導入としての短いプレゼンテーションをする。 <p>3.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、ある程度自分で活用して使い、話すことができる。 	<p>（参考）「フリップを用いて報告する」（教育出版、中1国語）</p> <p>（参考）「発表資料を工夫しよう」（光村図書、中2国語）</p>	<p>パワーポイントプレゼンテーション</p>	
---	---	-------------------------	--

<ul style="list-style-type: none"> - 話すための計画を、場合によって教師の指導のもとで、作成し、守って実施できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順を決め、構成をつくり、情報を整理する方法を使う。 ・ 話す際に、論理的に整理してまとめて話す。 ・ 話す時間を計画に入れ、守る。 ・ メモを使って話す。 ・ 資料やプレゼンテーション技術を的確に選び、使用する。 - 暗記の方法をある程度自分で深めることができる。 <p>3.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 課題に応じ、自分の言葉の使い方をある程度自分で工夫する。 - 自己と他者の言葉の使い方や話し合い方を、基準に沿って観察し、評価する。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 強みと弱みに気づく。 ・ 建設的な批判を行う。 - 話し合いのルールをある程度自分たちで決め、守る。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの流れ全体に注意し続ける。 ・ 多様な話し相手に合わせる。 ・ 話し相手に配慮し、認めながら自分の考えを述べる。 ・ 文化や言語の様々な違いに気づく。 - 他者との協働学習において自分の発言についての責任を取る。 - 自分の力の伸びに、場合によって教員の指導のもとで、評価をし、場合によって記録する。 			
<p>4. 書くこと</p>			
			28

<p>4.1 書く力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章を、機能に関する基準および美的な基準に沿って、概ね自分で書くことができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な書く目的を区別し、 ・ 相手や状況に合わせて書く。 ・ 意図に応じて書く。 ・ 文章の主要な型を適切に使用して書く。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかける ・ 意見を述べる（意見文） ・ 表現する（創作など） ・ 情報を伝える（要約文） ・ 分析する（説明文） ために書くことができる。 - 連続的テキスト（通常の記事）および非連続的テキスト（図表など）を、型に沿って、主に自分で書くことができる。 - 書くという活動の成果を表現することができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストの情報を要約し、評価する。 ・ 連続的テキスト（通常の記事）および非連続的テキスト（図表など）の内容と特徴について説明し、理由を述べる。 - 作業と学習の過程について、ある程度自分で記録することができる。 - 作品を基準にそって書くことができる。 <p>4.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、主に自分で、書くために使うことができる。 	<p>情報を伝えるテキスト （要約文、説明文） 参考「言語感覚を豊かにしよう」（学校図書） 参考「図表を用いて報告する」（教育出版、中1国語）</p> <p>主張を伝えるテキスト（意見文） 参考「資料を生かして呼びかけよう」（東京書籍、小6国語）</p> <p>文学作品 俳句をつくる</p>	<p>説明文を要約する</p> <p>図表の説明、引用</p> <p>コンセプトマップ</p> <p>俳句をつくる 「おーいお茶俳句コンクール」参加</p>	
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - テキストの作成の方法を使うことができる。 - 書く過程を、課題に応じて主に自分で計画し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料やアイデアを集める方法を目的にそって遂行できる。 ・ 書くための計画を主に自分で作ることができる。 - テキストを作成し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語にかかわる規則（例 文法、表記のルールなど）に則って正しく書く。 ・ テキストを論理的に構成して書く。 ・ 表現の様々な技法を用いる。 - テキストを、場合によって教師の指導のもとで、内容と言語に関する推敲ができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語として正しいか確かめる様々な方略を使う。 ・ 辞書・事典やテキスト作成機器（ワープロ）を活用できる。 - 短い発表についての要約が作成できる。 - お手本から正しく確実に大きな意味のまとまり単位で写すことができる。 - 引用の仕方を使うことができる。 - 出典を正しく書くことができる。 <p>4.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 書く過程を主に自分で、ペアやグループで計画し、実施し、反省できる。 - テキストを、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読みやすい字で、 ・ 適切な形式で、 			
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・適切なスピードで、書くことができる。 - 自分や他者のテキストと批判的にかかわることができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを、基準をもとに、理由を明確にして評価できる。 ・テキストを批評できる。 ・様々なフィードバックを与えたり、受け止めたりできる。 ・推敲の必要性をヒントから理解することができる。 - 自分および他者の書いたものをペアで、あるいはグループで、主に自力で推敲できる。 - 自分の書く能力の伸びを、主に自分で評価し、場合によって記録できる 			
5. 言語とその使用・学習について省察する			
<p>5.1 言語事項の力</p> <p>生徒は、</p> <p><i>言葉のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な言葉を大体正しく使うことができる。 - よく使われる同音異義語、多義語、送り仮名を正しく使う／書くことができる。 - 外来語や専門語を、正しく使うことができる。 - 言葉の意味（熟語を含め）を理解し、意図に応じて使用できる。 <p><i>文のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な敬語を正しく区別し、使用することができる。 - 句読点を自ら正しく使うことができる。 - カギ括弧を概ね正しく使える。 - 複雑な構文を分析し、作ることができる。 	<p>6年生の漢字（181字） 復習と書きの定着</p> <p>小6国語教科書（以下、学校図書 の単元）より 「日本語の表記」</p>		<p>18</p>

<ul style="list-style-type: none"> - 接続表現をその機能に応じて使用できる。 - 直接引用と間接引用を区別し書くことができる。 <p>文章レベルで</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てと、個々の要素の機能を概ね自分でとらえ、説明することができる。 - 表現とその形式的な特徴の機能をとらえ、その効果を説明できる。 - 文章の組み立てと表現や形式の特徴の関連を理解する。 - 文章の特定の箇所を引用し、その出典を簡単に記述する。 <p>言語の特質について</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の変化のいくつかの現象について理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の変化の傾向について理解し、自分の考えを持つ。 ・ 言葉の多様性とその機能を理解し、区別する。 - 特定の言葉や文体の効果について説明できる。 - 日本語の授業から得る知識をドイツ語やそのほかの外国語の学習に適用したりできる、またその逆ができる。 <p>5.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 漢字の由来、特質などについて、特に <ul style="list-style-type: none"> ・ 同音異義語を区別できる。 ・ 形声文字における音符と部首との関係を理解できる。 - 語句の意味を、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言い換えによって、 ・ 下位概念と上位概念によって、 ・ 同じ意味ないし反対の意味の語によって、 ・ 熟語の構成や成り立ちに気づくことによって、 理解できる。 - 文の組み立て 	<p>「前後のつながりを示すことば」</p> <p>「文末の表現」</p> <p>「文章構成の効果を考える」①②</p>		
---	---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・文末に注意し、比較し、適切に使える。 ・接続語の働きを比較し、適切に使うとともに、文と文との関係を理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> - 常体で書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> - 辞書・事典やその他のメディアを情報源として批判的に使うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> - 言語の比較の基本的な技能を概ね自分で使用できる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・各言語の現象を取り出し、知っているものや似ているものを探ることができる。 ・日本語、ドイツ語、英語などの言語の比較可能なものを特定できる。 - 言語を比較してわかったことや、比較の仕方について書き留め、他者に伝えることができる。 <p>5.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の決まりを認め、意識的にこれを使用できる。 - 言語的・非言語的な現象に注目し、意識することができる。 - 相手や状況に合わせ、様々な表現の工夫を使うことができる。 - 間違いを直したり、間違いを避けるための技術や参考書のある程度自分で活用できる。 - ペアでチェックしたり、助言を受けたりできる。 - 自分の力の伸びを主に自分で評価でき、場合によって記録できる。 			
---	--	--	--

第10学年			
身につける能力	教材 (出版社, 教科書の学年)	主な方法	時間
1. 聞くこと/見ること			
<p>1.1 聞く/見る力</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマ、また抽象的なテーマに関する、 ・知っている語句と、知らない語句を含み、 ・複雑な言語的な構造を持つ、 <p>- 視聴覚テキストを聞き/見、理解し、加工し、解釈でき、関連するより広い文脈の中に位置づけることができる。</p> <p>- 視聴テキストについての課題に取り組み、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマと主な主張をとらえ、まとめることができる。 ・内容を全体的に、選択的に、あるいは詳しくとらえて、再構成できる。 ・言語的・非言語的な表現の工夫の効果に気づき、コミュニケーション状況の中に位置づけ、解釈することができる。 ・コミュニケーションの目的を分析、解釈し、それについて自分の意見を述べるすることができる。 <p>1.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識およびテーマに関する知識、一般的な知識を、視聴覚テキストの理解に使うことができる。 <p>- 聞く/見るときに予想を立て、述べられる。</p>	<p>テーマ1 現代文学作品の分析</p> <p>テーマ2 科学技術の進歩と人間（生命倫理等）</p> <p>テーマ3 職業と労働（職業実習）</p> <p>テーマ4 明治の近代化</p> <p>視聴覚テキスト NHK for school http://www.nhk.or.jp/school/</p> <p>テーマ3</p>		10

<p>- 聞く/見る方略を、課題に応じて、概ね自分で選び、実行できる。すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを見つけ、それによって文脈を理解する。 ・ 情報を要約する。 ・ 理解できなかった箇所を埋める。 ・ 概ね自分で構成の明確なメモを作成できる。 ・ 覚書を作成する。 <p>- 視聴覚テキストの様々なバージョンの効果を比較できる。</p> <p>1.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <p>- 聞く/見る状況、視聴覚テキスト、課題に応じて、集中して聞く/見ることができる。</p> <p>- 課題に応じて、概ね自分で、次のように聞く/見る活動ができる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わからないことがあっても集中して聞くことができる。 ・ わからないことに焦点を当てて質問ができる。 ・ さまざまな話し手の特徴に配慮できる。(老若男女、方言、スタイルなど) <p>- 聞いた/見たことについて他者と話しあい、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚テキストの情緒的な効果について表現できる。 ・ 理解する際の問題について考えを深めることができる。 <p>- 自分の能力の伸びについて大体自分で評価し、場合によって記録できる。</p>	<p>「10min. ボックス公民」シリーズ 「企業の役割と責任」</p> <p>テーマ4 「歴史にドキリ」シリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治時代の人々 <p>「10min. ボックス歴史」シリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幕末の日本 ・ 近代国家の成立 <p>ポートフォリオ、自己評価など</p>		
2. 読むこと			
2.1 読む力			28

<p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマおよび、やや身近ではないテーマに関する、 ・大体知っている語彙を含み、 ・部分的に複雑な言語的構造を持つ、 <p>- 文章を読み、理解することができる。</p> <p>- 文章の内容、言語的特徴、形式を、概ね自分で分析し、その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を説明する専門用語を用いる。 ・中心となる内容を分析する。 ・情報を取り出し、整理し、加工し、比較する。 ・テキストの内容を解釈し、評価する。 ・構成や表現の工夫の機能と効果を分析し、説明する。 <p>- 多様な文章の種類を区別し、説明できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種類やジャンルによる特徴を特定する。 ・意図、機能、効果を説明する。 ・多様な表現媒体（メディア）の機能に気づき、評価する。 <p>- スムーズに、意味が伝わるように、表現豊かに読み、場面が伝わるよう音読/朗読する</p> <p>- 文学的な作品を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のジャンルの特徴を特定する。 ・作者と事実と作品を関連づける。 ・歴史的な背景がわかる。 ・重要な表現上の工夫を、作品のジャンルに応じてとらえ、説明する。 <p>- 説明的な文章を読み、分析し、理解できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな表現媒体（メディア）における連続的テキスト（通常の文章）および非連続的テキスト（図表など）の特徴と機能をとらえる。 ・筆者の意図を読み取る。 ・重要な表現上の工夫をとらえ、説明し、その際： ・筆者の思考の流れを、概ね自分で捉える。 	<p>文学的文章（国語教科書）：</p> <p>テーマ1：</p> <p>「星の花の降る頃に」（光村図書、中1）</p> <p>「音を追いかけて」（教育出版、中1）</p> <p>「ぬすびと面」（学校図書、中1）</p> <p>「アイスプラネット」（光村図書、中2）</p> <p>「走れメロス」（光村図書、中2）</p> <p>または「少年の日の思い出」（光村図書、中1）</p> <p>詩</p> <p>説明的文章（国語教科書）：</p> <p>テーマ2：</p> <p>「花があれば自然？」（三省堂、中1、平成24-27年）</p> <p>または 中村桂子「生き物として生きる」（光村図書、中3、平成</p>	
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実と意見を区別する。 ・ 根拠を明確にして自分の考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> - 多様なメディアを自分で区別し、利用する。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ その機能と効果をとらえる。 ・ 基本的な表現の工夫を説明する。 ・ 様々な利用や受容の方法（どのように情報を用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を広げることができるかなど）について考える。 <p>2.2 方法的能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、読解に使うことができる。 - 読む目標に応じて、自分で読みのスキルを使うことができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ スムーズに読む。 ・ 大意をつかむために斜め読みをする（スキミング）。 ・ 詳しく選択的に拾い読みをする（スキヤニング）。 - 読解の方略を概ね自分でテキストの解釈に活用できる、すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を予想したり、これまでの読みの経験を活用する。 ・ 文章のテーマや対象について推測をして述べる。 ・ 文章についての問いを立てる。 ・ 語句の意味を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> - 文脈から、 - 自分で調べることによって、 ・ 重要な箇所に印をつける。 ・ キーワードを見つけたり、メモをしたりする。 ・ 文章を意味のまとまりに分ける。 ・ 小見出しをつける。 ・ 読んだ結果を整理してまとめる。 ・ 文章の内容や構成を視覚化する。 	<p>18-23 年)</p> <p>「食の世界遺産」(東京書籍、中 2)</p> <p>中学公民教科書(東京書籍)より：「科学技術の発達」</p> <p>小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』(ちくまプリマー新書)2011</p> <p>雨宮処凜『14 歳からわかる生命倫理』(河出書房新社)2014</p> <p>テーマ 3：</p> <p>姜尚中「何のために働くのか」(光村図書、中 3)</p> <p>清水直子『教えて、ぼくらが持っている働く権利』(合同出版)2008</p> <p>村上龍『新 13 歳のハローワーク』(幻冬舎)2010</p> <p>中学公民教科書(東京書籍)から：</p> <p>「生産と労働」</p> <p>テーマ 4：</p>		
--	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - テクストを目的に応じて分析できる。 - 解釈あるいは読みの結果のプレゼンテーションに適した情報媒体（メディア）を自分で選び、利用できる。 - 学校図書館や公共図書館を自分で利用できる。 <p>2.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 読みの課題に概ね自分で取り組むことができる。 - 読みの状況、文章、課題に合わせ、集中して読むことができる。 - 自分の読みの経験や関心について考え、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容に対し、批判的に接近できる。 ・ 自分にとっての文章の意味を考えられる。 ・ 美的な理解の仕方を身につける。 - 何かを読んだ経験について他者と交流し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にして文章についての考えを表現する。 ・ 他者の感じ方、考え方、行動の表現として文学を理解する。 ・ 個人的な真実と表現された真実とを関連づける。（例 作者の生い立ちなどと作品の示す真実、読み手である生徒自身の経験と作品の示す真実など） ・ 様々な解釈の可能性を検討し、認めることができる。 - 決められた基準に沿って自分の読みの過程を評価できる。 - 読む活動についてのヒントを実行し、反省できる。 - 決められた基準に沿って自分の力の伸びを評価したり、場合によって記録できる。 - 読みの成果についての発表を基準に沿って、公正に評価する。 	<p>「江戸からのメッセージ」（光村図書、中 1）</p> <p>「オオカミを見る目」（東京書籍、中 1）</p> <p>中学歴史教科書（東京書籍）から：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸末期から明治へ 		
--	---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な状況を区別する。 ・ 標準語と専門用語を概ね的確に使用できる。 ・ 相手や状況に応じて話す。 ・ 言語および非言語的な手段（例 ジェスチャ、アイコンタクトなど）を、概ね自分から使用できる。 <p>- 口頭での表現の様々な形式を、概ね自分で区別し、使うことができる。すなわち：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作したことを話す。 ・ 様々な視点から語ったり、再話ができる。 ・ テキストに意味を持たせ、原稿を使い、あるいは持たずに、話したり朗読したりできる。 ・ 客観的に構成して話す。 ・ 文学的および非文学的なテキストの大まかな情報、ないし詳しい情報を再生し、また要約する。 ・ 出来事、手順を報告する。 ・ 対象（映像作品、生きもの、手順など）を説明し、比較する ・ 人物や登場人物の人物像をとらえて説明する ・ 情報を伝える短いプレゼンテーションや議論の導入としての短いプレゼンテーションをする。 <p>3.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、自分で活用して使い、話すことができる。 <p>- 話すための計画を、概ね自分で作成し、守って実施できる。その際：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順を決め、構成をつくり、情報を整理する方法を使う。 ・ 話す際に、論理的に整理してまとめて話す。 ・ 話す時間を計画に入れ、守る。 ・ メモを使って話す。 ・ 資料やプレゼンテーション技術を的確に選び、使用する。 	<p>語)</p>	
--	-----------	--

<p>- 暗記の方法を概ね自分で深めることができる。</p> <p>3.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 課題に応じ、自分の言葉の使い方を概ね自分で工夫する。 - 自分と他者の言葉の使い方や話し合い方を、基準に沿って観察し、評価する。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 強みと弱みに気づく。 ・ 建設的な批判を行う。 - 話し合いのルールを概ね自分たちで決め、守る。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの流れ全体に注意し続ける。 ・ 多様な話し相手に合わせる。 ・ 話し相手に配慮し、認めながら自分の考えを述べる。 ・ 文化や言語の様々な違いに気づく。 - 他者との協働学習において自分の発言についての責任を取る。 - 自分の力の伸びに、ある程度自分で評価をし、場合によって記録する。 			
<p>4. 書くこと</p>			
<p>4.1 書く力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章を、機能に関する基準および美的な基準に沿って、ほとんど自分で書くことができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な書く目的を区別し、 ・ 相手や状況に合わせて書く。 ・ 意図に応じて書く。 	<p>説明的文章 履歴書、応募書類</p> <p>参考： 「構成を考えて書こう」（東京書籍、中2国語） 「依頼状、お礼状を書こう」（東京書籍、中2国語）</p>	<p>履歴書 応募書類を書く</p>	<p>28</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の主要な型を適切に使用して書く。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかける ・ 意見を述べる(意見文) ・ 表現する(創作など) ・ 情報を伝える(要約文) ・ 分析する(説明文) ・ 弁証法による論証(意見文) <p>ために書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 連続的テキスト(通常の記事)および非連続的テキスト(図表など)を、型に沿って、主に自分で書くことができる。 - 書くという活動の成果を表現することができる。すなわち： <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストの情報を要約し、評価する。 ・ 連続的テキスト(通常の記事)および非連続的テキスト(図表など)の内容と特徴について説明し、理由を述べる。 - 作業と学習の過程について、概ね自分で記録することができる。 - 作品を基準にそって書くことができる。 <p>4.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言語的、社会文化的な知識、およびテーマに関する知識、一般的な知識を、ほとんど自分で、書くために使うことができる。 - テキストの作成の方法を使うことができる。 - 書く過程を、課題に応じて主に自分で計画し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料やアイデアを集める方法を目的にそって遂行できる。 ・ 書くための計画を自分で作ることができる。 	<p>「自己 PR 文を読み合う」(教育出版、中 3 国語)</p> <p>意見文 (弁証法型論証) 「根拠を明確にして意見を書こう」(光村図書、中 2 国語)</p> <p>「鑑賞文を書く」(光村図書、中 1 国語)：文章や映画などの鑑賞文</p> <p>文学的文章 俳句</p>	<p>俳句をつくる 「おーいお茶俳句コンクール」参加</p> <p>試験における時間配分の仕方を工夫する</p>	
--	---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> - テキストを作成し、その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語にかかわる規則（例 文法、表記のルールなど）に則って正しく書く。 ・ テキストを論理的に構成して書く。 ・ 表現の様々な技法を用いる。 - テキストを、ある程度自分で、内容と言語に関する推敲ができる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語として正しいか確かめる様々な方略を使う。 ・ 辞書・事典やテキスト作成機器（ワープロ）を活用できる。 - 短い発表についての要約が作成できる。 - お手本から正しく確実に大きな意味のまとまり単位で写すことができる。 - 引用の仕方を使うことができる。（ページ・行番号を本文中で引用するなど） - 出典を正しく書くことができる。 <p>4.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 書く過程を主に自分で、ペアやグループで計画し、実施し、反省できる。 - テキストを、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読みやすい字で、 ・ 適切な形式で、 ・ 適切なスピードで、 書くことができる。 - 自分や他者のテキストと批判的にかかわることができる。その際： 			
---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ テクストを、基準をもとに、理由を明確にして評価できる。 ・ テクストを批評できる。 ・ 様々なフィードバックを与えたり、受け止めたりできる。 ・ 推敲の必要性をヒントから理解することができる。 <p>- 自分および他者の書いたものをペアで、あるいはグループで、主に自力で推敲できる。</p> <p>- 自分の書く能力の伸びを、主に自分で評価し、場合によって記録できる</p>			
5. 言語とその使用・学習について省察する			
<p>5.1 言語事項の力</p> <p>生徒は、</p> <p><i>言葉のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な言葉を大体正しく使うことができる。 - 同音異義語、多義語、送り仮名を正しく使う／書くことができる。 - 外来語や専門語を、正しく使うことができる。 - 言葉の意味（熟語を含め）を理解し、意図に応じて使用できる。 <p><i>文のレベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 様々な敬語を正しく区別し、使用することができる。 - 句読点を自ら正しく使うことができる。 - カギ括弧を概ね正しく使える。 - 複雑な構文を分析し、作ることができる。 - 接続表現をその機能に応じて使用できる。 - 直接引用と間接引用を区別し書くことができる。 <p><i>文章レベルで</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てと、個々の要素の機能を自分でとらえ、説明することができる。 - 表現とその形式的な特徴の機能をとらえ、その効果を説明できる。 	<p>中 1 の漢字（300 字）</p> <p>「漢字の成り立ち」（光村図書、中 1 国語）</p> <p>「敬語」（光村図書、中 2）</p> <p>「指示する語句と接続する語句」（光村図書、中 1）</p>	<p>敬語は特に職業実習との関連で学習</p>	18

<ul style="list-style-type: none"> - 文章の組み立てと表現や形式の特徴の関連を理解する。 - 文章の特定の箇所を引用し、その出典を簡単に記述する。 <p>言語の特質について</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の変化のいくつかの現象について理解できる。その際： <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の変化の傾向について理解し、自分の考えを持つ。 ・ 言葉の多様性とその機能を理解し、区別する。 - 特定の言葉や文体の効果について説明できる。 - 日本語の授業から得る知識をドイツ語やそのほかの外国語の学習に適用したりできる、またその逆ができる。 <p>5.2 方法的な能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - これまで学んできた学習技能を用いて、文法と表記の面から推敲ができる。 - 辞書や参考資料、電子／デジタルメディアを自分で、批判的に利用することができる。 - 言語の比較の技能を自分で活用し、その際、日本語、ドイツ語、英語、その他の言語をその対象にすることができる。 - 言語比較における成果と方法を、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録でき、 ・ 発表でき、 ・ コメントできる。 <p>5.3 自己と他者にかかわる能力</p> <p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 言葉の決まりを認め、意識的にこれを使用できる。 - 言語的・非言語的な現象に注目し、意識することができる。 - 相手や状況に合わせ、様々な表現の工夫を使うことができる。 - 間違いを直したり、間違いを避けるための技術や参考書を概ね自分で 		<p>言語の比較対照を行う</p>	
---	--	-------------------	--

第 10 学年

<p>活用できる。</p> <ul style="list-style-type: none">- ペアでチェックしたり、助言を受けたりできる。- 自分の力の伸びを自分で評価でき、場合によって記録できる。			
---	--	--	--

DSTY 日本語カリキュラム
アビトゥア課程（第 11・12 学年）

第 11 学年－前期

テーマ 1：明治・大正時代の文学				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> - 明治・大正時代への導入 - この時代の代表的なテキストの解釈 - 文学作品の分析と解釈 	<p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 明治・大正時代の文学作品を読むことができる。 - 様々な種類・タイプ、文体のテキストで、知らない語を含むものを理解し、要約し、加工できる。 - 言語的な手段を使って、文章の内容を互いに結びつけてまとめ、要約文を作成できる。 - 文学作品の中の考え、感情、印象、問題を自分の生活や経験世界と関連づけて表現できる。 - 社会文化的な知識を用いて、文学作品の歴史的・社会的な状況について説明ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および公民教科書（中 1～中 3）から： <ul style="list-style-type: none"> ・夏目漱石 ・森鷗外 ・芥川龍之介 の作品（書評も含む） - 中 1～中 3 の頻出漢字 - 送り仮名（中 2、光村国語） 	<ul style="list-style-type: none"> - 文学作品の理解と分析の基本的な方法を使うことができる。 - 叙述などの箇所を引用し、これを用いて分析を裏づけたり、解説をする。 	28

テーマ 2 : メディア・リテラシー				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> - メディアと現実 - 情報と操作 - 説明的文章の分析 - テキストの比較分析 	<p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 伝統的なメディアや新しいメディアに特有の表現の方法、その受け止められ方、効果、問題点について説明し、分析でき、批判的に省察できる。 - テキストの重要な要素と構成を理解し、説明できる。 - 筆者の立場を捉えられる。 - テキストが書かれた状況的な枠組みが理解できる。 - 規範や価値観について省察的に読み取り、自分なりの判断ができる。 - テキストを分析し、解釈し、場合によって筆者の操作的な意図を理解し、テキストの比較分析によって異なる書き手の立場や意図を捉えることができる - 言葉の意味（特に抽象概念、類義語・対義語・多義語を含め）を解釈し、言葉の機能や意図に応じて使用できる。 - あらゆる語の種類や形式の働きについての知識をテキストの分析や作成に効果的に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および公民教科書（中 1～中 3）からメディアに関するテキスト - 新聞記事、広告 - 映像 - 中 1～中 3 の頻出漢字 - 類義語・対義語・多義語（中 2、光村国語） 	<ul style="list-style-type: none"> - メディア分析についてのパワーポイントプレゼンテーション - メディアの効果と影響について評価し、省察しつつそれを活用できる。 - テキスト分析やプレゼンテーションに適したメディアを自分で選び、利用できる。 	28

第 11 学年—後期

テーマ 3 : アジア・太平洋地域における戦争とその記憶				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> - 大戦期と今日における日本と近隣諸国 - 文学作品におけるアジア・太平洋戦争 - 次のテーマについて多面的な視点を身につける： <ul style="list-style-type: none"> - 近隣諸国への日本の侵略 - 広島と長崎の原爆投下 	生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> - テキストの分析・解釈において歴史的知識を使用することができる。 - 表現の工夫とテキストの意図を理解し、解釈し、自分の考えをもつことができる。 - 文学作品の取り上げている考え・感情・印象・問題を、自身の生活と経験世界と関連づけて表現できる。 - 日本と近隣諸国の関係のもつ意味と、このテーマに関する多様な立場や視点について、地理・歴史・社会・政治・経済・文化に関わる問題に留意しながら、説明・分析し、議論することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および歴史教科書（中 1～中 3）からアジア・太平洋戦争を取り上げた文学作品と説明的文章 - 新聞記事、詩、随筆、写真、映画 - 中 1～中 3 の頻出漢字 - 同音異義語・同訓異義語（「同じ訓・同じ音をもつ漢字」中 2、光村国語） 	<ul style="list-style-type: none"> - 弁証法型論証の練習 - 議論を開始・継続・展開・終了することができる。またそれを自ら実施することができる。 	28

テーマ 4 : 日本国憲法と私たちの生活における人権				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間

第 11-12 学年

<ul style="list-style-type: none"> - 人権と民主主義の発達 - 大日本憲法と日本国憲法の比較 - 9 条と自衛隊 - 社会における格差と人権 	<p>生徒は、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現在の公共の生活と政治的文化について、地理・歴史・社会・政治・経済・文化に関わる問題に留意しながら、説明・分析し、議論することができる。 - 現代の民主主義の問題点、その価値、個人と国家の役割を様々な視点からとらえ、様々な立場を分析し、自分なりに判断を下すことができる。 - 言語的な資料（文章）・非言語的な資料（統計など）を使って学習テーマについて自分のプレゼンテーションや文章作成ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および公民教科書（中 1～中 3）から人権というテーマにかかわるテキスト - 新聞記事 - ドキュメンタリー映像 - 中 1～中 3 の頻出漢字 - 熟語の構成（中 2、光村国語） - 『最新図説 現社』（浜島書店）等から図表 	<ul style="list-style-type: none"> - 統計やグラフの説明、分析ができる。 - プレゼンテーションを準備・実施し、基準に沿ったフィードバックができる。 <p>裁判所・国会議事堂見学</p>	<p>28</p>
--	---	--	---	-----------

第 12 学年—前期

テーマ 1：環境問題				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> - 私たちの日常生活と環境問題 - 原子力エネルギー、再生可能エネルギーにつ 	<ul style="list-style-type: none"> - 環境問題について、地理的、社会的、政治的、経済的観点から捉え、資料の情報を活用し、客観的に理由を明確にして説明したり、自分の意見を論じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および公民教科書（中 1～中 3）から環境問題にかかわるテキスト 	<ul style="list-style-type: none"> - 図表の説明と分析・解釈（11 年生テーマ 4 の学習事項の定着） 	<p>28</p>

<p>いての賛否両論</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題とその背景について、社会的、文化的、政治的、経済的な要因との関連において捉え、問題を自分たちの日常生活と関連づけながら多面的な視点から考察できる。 ・ 言語による資料や非言語的な資料（統計など）を使った自分の発表や文章を通じて、自身の考えを伝えることができる。 ・ 説明的な文章の構成を捉え、それを自分の文章作成作業において活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 新聞記事、読者の投書 - 中 1～中 3 の頻出漢字 - 漢字の造語力（中 3、光村国語） 	<ul style="list-style-type: none"> - 引用の方法的技能を高める 	
----------------	--	---	--	--

テーマ 2 : 国際協力				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> - 南北問題 - 国際社会と日本における国際協力 - グローバル化の光と影 - 難民問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的、歴史的、社会的、政治的、経済的、文化的観点から国際協力というテーマと内容について、そのグローバルな意味を説明することができ、論じることができる。 ・ グローバル化、国際協力のさまざまな形態と役割、および日本の責任について多様な観点からとらえ、考察し、自分なりの判断ができる。 ・ 高度な説明文・論説文の内容を捉えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 国語および公民教科書（中 1～中 3）から環境問題にかかわるテキスト - 新聞記事、ドキュメンタリー、随筆 - 中 1～中 3 の頻出漢字 	<ul style="list-style-type: none"> - 複数の文章の比較分析の技能を高める練習 	28

	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の重要な要素と構成（論理展開）を捉え、説明できる。 ・文章の背後にある隠れた意図、重要な箇所、書き手の主張を捉え、批評できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語（中3、光村国語） 		
--	---	---	--	--

第 12 学年－後期

テーマ3：異文化間コミュニケーションと文化的マイノリティ				
テーマ領域/ 内容	身につけるべき能力	教材	方法的能力	時間
<ul style="list-style-type: none"> ・異文化間コミュニケーションにおける可能性と問題点 ・様々な社会（日本とヨーロッパ）におけるマイノリティと社会構造 ・多言語能力と異文化間コミュニケーションの状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマに関連して、社会文化的知識、自分の経験、日本語や日本における行動様式・習慣について考えることができる。 ・異文化間コミュニケーションにおける問題、特に多数派と少数派の間の軋轢について分析的にとらえ、解決策について多面的に論じることができる。 ・自分の多言語能力を言語意識や言語比較の力の発達に活用できる。 ・テキストの分析やプレゼンテーションにあった資料を自分で選び、活用できる。 ・言語的・非言語的な手段を意図に応じて使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語および公民教科書（中1～中3）から異文化間コミュニケーションにかかわるテキスト ・新聞記事、映画・動画、随筆 ・中1～中3の頻出漢字 ・慣用句・ことわざ・故事成語（中3、光村国語） 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いたプレゼンテーション ・図書館やインターネットによる情報検索の方法 ・効果的な資料の視覚化 	28

第 11-12 学年

教材案：

(出版社、教科書の学年、教科書年度)

<第 11 学年 テーマ 1: 明治・大正文学>

夏目漱石

「坊っちゃん」(三省堂、中 3、2016-)

場合により「吾輩は猫である」(三省堂、中 3、2016-)

森鷗外

「木霊」(学校図書、中 1、2016-)

場合により「高瀬舟」(光村図書、中 3、2016-)

場合により「最後の一句」(教育出版、中 3、2016-)

芥川龍之介

「トロッコ」(東京書籍、中 1、2016-)

「くもの糸」(教育出版、中 1、2016-)

「少年と海」(学校図書、中 3、2016-)

場合により「鼻」(第一学習社、高等学校標準現代文 B)

<第 11 学年 テーマ 2: メディア・リテラシー>

池上彰「ニュースの見方を考えよう」(東京書籍、中 1、2016-)

第 11-12 学年

池上彰「メディアと上手につきあうために」(光村図書、中 2、2016ー)

香西秀信「正しい言葉は信じられるか」(東京書籍、中 2、2016ー)

「新聞の社説を比較して読もう」(光村図書、中 3、2016ー)

菅谷明子「情報社会と生きる：メディア・リテラシー」(三省堂、中 3、2016ー)

<第 11 学年 テーマ 3：太平洋戦争と今日の日本>

井伏鱒二「黒い雨」(学校図書、中 3、2016ー)

ジョー・オドネル「目撃者の眼」(学校図書、中 2、2016ー)

石垣りん「挨拶。原爆の写真に寄せて」(光村図書、中 3、2016ー)

松村善三「碑」(東京書籍、中 1、2016ー)

あまんきみこ「雲」(三省堂、中 1、2006-2012)

五木寛之「私が哀号とつぶやくとき」(教育出版、中 3、2006-2012)

猪口邦子「パールハーバーの授業」(学校図書、中 3、2016ー)

<第 11 学年 テーマ 4：日本国憲法と私たちの生活における人権>

藤田紀昭「ディサビリティスポーツの可能性」(東京書籍、中 1、2006-12)

ラッセル・フリードマン「小さな労働者」(東京書籍、中 2、2016ー)

伊藤真『高校生からわかる日本国憲法入門』トランスビュー出版

池上彰『池上彰の憲法入門』ちくま書房

=====

<第 12 学年 テーマ 1：環境問題>

千葉保「コンビニ弁当 16 万キロの旅」(東京書籍、中 1、2012-2016)

片谷のりたか「循環型社会とは何か」(三省堂、中 2、2012-2016)

かみさとたつひろ「フロン規制の物語」(三省堂、中 3、2016-)

<第 12 学年 テーマ 2：国際協力>

内橋克人「顔の見える国際協力」(学校図書、中 3、2016-)

貫戸朋子「マドゥーの地で」(光村図書、中 2、2002-2006)

<第 12 学年 テーマ 3：異文化間コミュニケーションと文化的マイノリティ>

呉人恵「ありがとうと言わない重さ」(三省堂、中 3、2012-2016)

西江雅之「伝え合い」(光村図書、中 2、2002-2006)

21 世紀研究会『常識の世界地図』文春新書 21